

5 - 4 東日本の最近の地震活動について

Recent Seismic Activity in the Eastern Japan

東京大学地震研究所 茂 木 清 夫

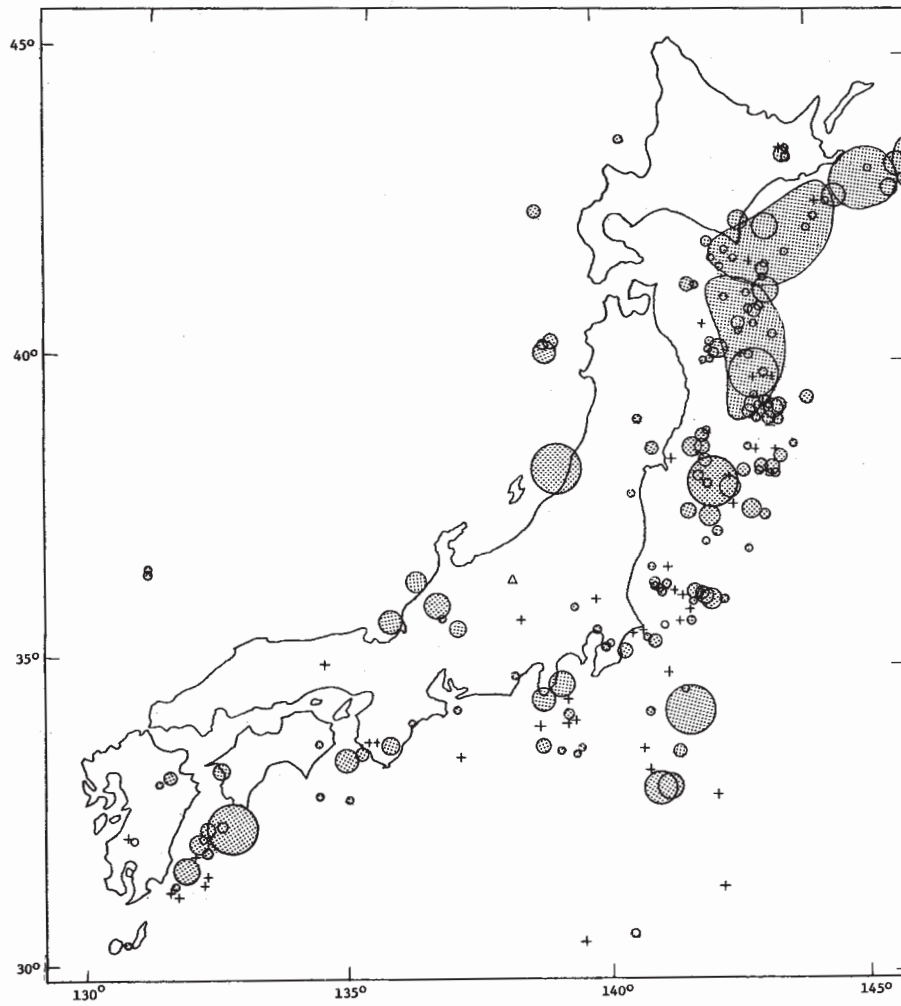
Kiyoo Mogi
Earthquake Research Institute, University of Tokyo

1978年6月12日宮城県沖合にM7.4の地震が発生した。ほぼ同じ場所に1936年金華山沖地震が起こっている。この場合は、4回の大地震、即ち八戸沖地震(M7.6, 1931年)、三陸沖地震(M8.3, 1933年)、金華山沖地震(M7.7, 1936年)、福島県沖地震(M7.7, 1938年)が逐次南下しながら起こったことで注目された(Mogi, 1969)。このほかにも、1933年の三陸沖地震の前後にM6以上の中規模の地震の活動域が北から南に移動したこと(Mogi, 1968)、1968年の十勝沖地震の余震域が南の方に著しく拡大したことなど、この地域では地震活動が北から南へ移動する傾向が認められる。従って、今回の地震につづいて活動が南下する可能性が考えられる。

第1図は1950年以降今回の地震まで約30年間に起こったM5.7以上の地震の震源域の分布を示したものである(今回の地震も含まれている)。この図で日本海溝沿いの地震帯に注目すると、福島県沖にかなり明瞭な空白域が認められる。上に指摘した地震活動の南下の傾向を考慮すると、福島県沖の空白域は今後監視の必要があると思われる。(もっとも、この空白は1938年の福島県沖地震による地殻エネルギーの解放によるものであるという見方も否定できない。

参 考 文 献

- Mogi, K. ; Migration of seismic activity, Bull. Earthq. Res. Inst., 46 (1968), 53 - 74.
- Mogi, K. ; Some features of recent seismic activity in and near Japan (2), Bull. Earthq. Res. Inst., 47 (1969), 395 - 417.



第 1 図

Fig. 1 Spatial distribution of focal regions of shallow earthquakes ($M \geq 5.7$) which occurred in and near Japan during the period (1950 - 1978, June).